

2 特定中山間保全整備事業及び農用地総合整備事業

○ 特定中山間保全整備事業等の事業実施完了後の評価

【第1-2-(3)】

要 旨

平成29年度は、3区域(南丹区域、黒潮フルーツライン区域、阿蘇小国郷区域)の完了後の評価を実施し、1区域(下閉伊北区域)の完了後の評価に係る調査業務(社会経済情勢の変化等に関する基礎的資料の作成を含む。)を実施した。

(1)ー1 完了後の評価(阿蘇小国郷区域、南丹区域、黒潮フルーツライン区域)

前年度までに、基礎的資料作成を行った3区域について、技術的・専門的な知見を有する者で構成される技術検討会の意見を含む評価結果をとりまとめ、平成29年8月末に公表した。

【事業完了後の評価の状況】

1. 阿蘇小国郷区域(特定中山間保全整備事業)

- ①関係市町村 熊本県阿蘇郡南小国町、小国町
- ②総事業費 137億2,400万円
- ③事業内容 区画整理117ha、暗渠排水24ha、用排水路整備20km、ため池1ヶ所
農林業用道路23.2km、林地転換1.2ha
森林整備(水源林造成40ha、分収育林32ha)

本評価は、林業部門(水源林造成、分収育林及び農林業用道路整備の林道分)を除いた農業部門を対象として行った。

完了後の評価結果の概要

本事業による区画の整形・拡大等により、作業の効率化が図られるとともに、飼料作物の作付が増加し国産粗飼料の安定的な供給が可能となっており、一部の集落では、基盤整備後に集落営農組織が設立され、農地の集積や農作業委託が進んでいる。

また、農林業用道路の整備は、農産物、木材等の運搬、農作業や林業作業に係る移動時間の短縮による労力の軽減、食品残渣の運搬路として循環型農業の推進にも寄与しているほか、通勤、通学等日常生活の利便性の向上や災害時等の緊急車両の通行ルートとして安心感の向上に寄与している。

更に、耕作放棄地が林地転換されたことに伴い、耕作放棄地を起因とする病害虫や獣害の発生等が防止され、良好な農業生産環境が確保されている。



収穫された飼料用稲(万成団地)



大根の収穫状況



農林業用道路

2. 南丹区域(農用地総合整備事業)

- ①関係市町村 京都府南丹市、船井郡京丹波町
- ②総事業費 264億円
- ③事業内容 区画整理37ha、暗渠排水135ha
農業用道路22.1km

完了後の評価結果の概要

本事業による区画の整形・拡大や排水改良により、機械作業による農作業の効率化や地域特産物である黒大豆や酒米の作付けが増加したほか、農業法人への作業委託が促進されるとともに、周辺農地では余剰労力を活かして野菜類が栽培されている。

また、農業用道路の整備により農地及び集落間の移動時間が短縮され、広域的な通作や森林管理作業に係る負担の軽減や農産物等流通の改善が図られている。

この他、農業用道路は、地域住民の通勤・通学等に利用されており、日常生活の利便性の向上が図られているほか、大雨等の異常気象時の迂回路としての役割も果たしており、地域住民の安心感の向上に寄与している。



黒大豆の栽培(区画整理:竹野団地)



農業用道路(園部八木線1工区)

3. 黒潮フルーツライン区域(農用地総合整備事業)

- ①関係市町村 和歌山県日高郡印南町、みなべ町(旧南部川村、南部町)
- ②総事業費 223億円
- ③事業内容 区画整理53ha、暗渠排水64ha、農用地造成27ha
農業用道路14.3km

完了後の評価結果の概要

本事業による区画の整形・拡大や排水改良により、農地の汎用化が進み、うめ、スターチス等の高収益作物の作付けが拡大するとともに、耕作道・進入路の整備により機械利用が容易になり、営農労力が軽減されている。

また、農業用道路は、中山間地域を通っており、御坊市や田辺市への農産物の運搬時間や通作時間の短縮が図られている。

このほか、農業用道路は地域住民の通勤、通学等に利用され、地域間の人・ものなどの往来による利便性の向上に貢献しているほか、緊急車両の通行や震災等非常時のルートとして地域の安全確保に寄与している。



宮ノ前団地(区画整理)



農業用道路(1工区)

(1)ー2 技術検討会委員

表 平成29年度事後評価 技術検討会の委員		
氏名	専門分野	所属等
浅野 耕太	環境経済	京都大学大学院 人間・環境学研究科 教授
飯田 俊彰	農業土木	東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授
橋本 禅	農村計画	東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授
【阿蘇小国郷】 穴見 まち子	地域農業	小国町議会 議員
【南丹】 寺坂 明美	地域振興	農業生産者グループ アグロスの会
【黒潮フルーツライン】 岩本 恵子	地域振興	みなべ町商工会 理事 みなべおかみ元気会 会長

(2)ー1 完了後の評価に係る調査業務(下閉伊北区域)

完了後の評価に係る調査

事業による地域の変化を捉えるため、各種計画や営農状況等を関係県、関係町村、JA及び農家等へヒアリング調査を行い、整備した農用地や農業用道路の利用状況、効果の発現状況等を把握するため、受益者及び一般の方にアンケート調査を実施した。

整備した農用地の作付状況を把握するため、春と秋の2回作付調査を実施、農業用道路の一般交通の通行量を把握するため、交通量調査(平日、休日の2日間)を実施した。これらの調査を基に、社会経済情勢の変化等に関する基礎的資料を作成した。

【事業完了後の状況】

1. 下閉伊北区域(農用地総合整備事業)

- ①関係市町村 岩手県下閉伊郡岩泉町、田野畑村、普代村
- ②総事業費 182億2,400万円
- ③事業内容 区画整理92ha、客土6ha、暗渠排水4ha、土層改良13ha
農業用道路15.7km、附帯する用水路1.6km

完了後の状況

区画整理による区画の整形・拡大、耕作道の整備、暗渠排水による排水不良の改善、客土や土層改良による営農環境の改善により、農作業が効率化され、農地の集積が進み、農作業の共同化が進展。

附帯する用水路の整備により、用水が安定して供給できるようになるとともに、水路の維持管理が省力化。

農業用道路は、農産物の出荷、肉用牛の輸送、飼料や堆肥の運搬等に利用。また、地域住民の通勤、通学、通院、買い物等に利用。

農業用道路は、平成23年3月の東日本大震災、平成28年8月末の台風10号被害の際、通行止めとなった国道の代替路として機能。



ブロッコリー(菅窪団地)



農業用道路(岩泉工区)



災害時に国道の代替路として機能(岩泉工区)